

講演会 & ライブ な日々④①

古川 秀明

『子どもと学校を考える』

日常生活における子ども達の居場所（環境）は、家庭か学校です。

高校生になるとアルバイト先が居場所に加わりますが、やはり家庭と学校が子どもたちの居場所の中心になります。

今回は子どもと学校について考えてみたいと思います。

1. 学校の現状

年 30 日以上登校せず、「不登校」とされた小中学生は、2023 年度は過去最多の 34 万 6482 人に上ったことが文部科学省の調査でわかりました。

前年度より 4 万人余り増え、30 万人超は初めてです。

私がスクールカウンセラー（以下 SC と表記）を始めた平成 9 年頃、不登校が急増し、その数は約 13 万人でした。

それがだんだんと増加し、約 13 万人→約 16 万→約 19 万、そしてついに 30 万人を超えました。

その要因はコロナ、教員不足など専門家の皆さんがいろいろ分析し、複数挙げられています。

その中で私が注目しているのは、嫌がる子どもを無理に学校へ行かせる必要はないと思っている親や大人が増えているということです。

確かに今の学校現場は、子どもをうつ病や自殺に追い込んでしまうほどの危険性があります。

それはいじめの認知件数にも表れています。

全国の小中学校や高校などで 2023 年度に認知されたいじめは、過去最多の 73 万 2568 件（前年度から 7.4%増）でした。

心身や財産に重大な被害があったなどとして認定される「重大事態」も 1306 件（同 42.1%増）に上り、初めて 1 千件を超えています。

学校の持つ危険性は子どもだけでなく、現場で働く教師にも悪影響を及ぼしています。

精神疾患で 2022 年度に休職した全国の公立学校教員は 6539 人（前年度比 9.8%増）に上り、2 年連続で過去最多を更新しました（文科省発表）。

精神疾患で病気休暇（1 カ月以上）を取った教員との合計も過去最多の約 1 万 2 千人に上ります。

その要因は様々で、過労死ラインを超える長時間勤務や、モンスターペアレントの対応、職員室での人間関係、指導が難しい子どもたちへの対応など、これも複数が挙げられています。

子どもの不登校 34 万人、いじめ事案 73 万件、教師のメンタル不調による休職者が年間 6500 人超。

語弊があるかもしれませんが、今の学校という環境は、精神を病む教師と生徒を毎日生み出す生産工場みたいになっています。

2. 学校という環境

確かにいじめやコミュニケーションの問題を抱え、しんどい思いをしながら最悪自殺にまで追い込まれてしまうような学校であれば、身を守るために不登校になるのは生きる選択としては間違っていないと思います。

しかし、だからと言って学校を全否定するのも何か違います。

学校という環境には、子どもが社会で生きて行くための知識や技術が詰まっています。

知識の習得だけであれば何も思い通りにならない先生や同級生のいる学校で学ばなくても、一人でパソコンやオンラインで勉強すればいいのです。

ただ、人間は機械ではありません。

単に情報や知識を詰め込むだけでは、賢くなれても幸せにはなれない生き物です。

知識とは集団の中で話し合い、擦り合わせ、反発し、折り合いながら発展させていくものです。

学校は人間が生み出した最高の学ぶ場であり、やさしさや思いやり、夢と希望と友情を確かめ合う環境であると思います。

私の妄想ですが、もし人間以外の霊長類が学校を作って子どもを教育し始めたら、人間を超える存在になるかもしれません。

学校はそこに通う子ども達を成長させ、人類を支える英知を獲得し、人として幸せに生きる技術を身に付けさせることができる、まさに子ども達の明日や未来を作り上げていく、素晴らしい環境を提供できる可能性を秘めています。

3.学校の抱える課題

人類が生み出した素晴らしい環境であるはずの学校ですが、前述した通り、現状は悲惨です。

しかしそれは学校や子どもたちが悪いのではなく、学校を運営する大人側の問題もあります。

大人たちがもっと時代の流れに能動的に対応する必要があると思います。

今の教育基本法の基礎は明治 23（1890）年の第二次小学校令からだと言われています（諸説あります）。

そこから変遷を重ね、平成 18 年に新教育基本法が制定されました。

もっともなことが書かれていますが、どれだけの人がこれを読んで実践するでしょう？

法律にケチを付ける気はありませんが、今の学校が抱える問題は、法律や理念、道徳観だけでの解決は難しいです。

生まれた時からパソコンが身近にあり、小学生の時からスマホを持ち、教科書はデジタル化で紙媒体からタブレットに進化。

昔は子どもが親に頭を下げて「どうか学校へ行かせてください」と頼んでいたのが、今では親が子どもに頭をさげて「どうか学校へ行ってくれないか」とお願いしなければならない時代になりました。

4. 解決の方法

SC として 30 年、学校現場で児童生徒と教師を客観的に見つめてきました。

学校に行けない、行きたくない子どもたちと、学校へ行かせたい親や教師の果てしない攻防戦は、手のかえ品をかえ、今も続いています。

そんな不登校の子どもたちに共通していることは、どの子も本当は学校に行って、同年代の友達とワイワイガヤガヤ楽しく過ごしたいと思っているということです。

みんな、普通の小学生や中学生や高校生になりたいと思っているのです。

この「普通」のモデルとなるのは、youtube、tiktok、Instagram など SNS の中の動画や画像に出てくる、幸せそうな自分と同世代の学生たちです。

それを見るたびにため息をついて、「ああ、みんなはこんなに幸せそうにキラキラ輝いているというのに、私は学校に行っても友達もいないし、顔も可愛くないし、勉強も好きじゃないし、部活も続かないし…」

いくら親や教師が慰めたり、励ましたり、説得しても、日々垂れ流される動画や画像が子どもたちをどんどん蝕んでいきます。

とても親や教師が巻き返せるものではありません。

昨今では人工知能 A I が浸透し、高校進学に通信制や単位制が普通に選択され

るようになりました。

子ども達は学校という、ストレスフルな集団生活からの撤退を始め、個人主義を唱えます。

その個人主義は卒業後も「引きこもり」という形を取り、それは同時に子ども達をどんどん孤独にしていきます。

孤独は人間のメンタルを直撃するものですが、これも時代の流れで変わってきています。

パソコンやスマホの中にいる二次元の仲間や恋人がいれば、孤独を楽しめる時代です。

つまり、集団の力を育てる「学校」という環境がなくても、子ども達は困らない時代になってきているのです。

学校がなくても誰も困らないのなら、学校を無くせばいいじゃないかと、つい短絡的に考えてしまいそうになりますが、ここに大きな問題が立ちはだかります。

それは子どもたちの自殺問題です。

2023 年の 1 年間に自殺した小中学生や高校生は、暫定値で 507 人。

過去 2 番目に多くなる見通しで、現状では、日本の小中高生は 1 週間で約 10 人が自殺している勘定になります。

事態を重く見た文部科学省は、一人 1 台配っている端末を相談や健康観察に活用するなど、悩みを抱えた子どもの早期把握に取り組むよう全国に通達しました。

自殺の要因ベスト 3 は、①進路に関する悩み（入試に関する悩みを除く）②学業不振③親子関係の不和。この 3 つで自殺動機の半数を占めますが、残り半数の自殺理由は「不明」です。

子どもの自殺理由を学校や家庭が原因だと考えると分かりやすいですが、自殺をした本人に本当の理由を聞けないので、実際のところは分かりません。

それならば手の打ちようがないではないかと思う方もいらっしゃるでしょうが、そこに学校教育が果たすこれからの大きな役割があると思います。

私の考えですが、学校で命に関する教育システムを導入すれば、不登校やいじめ、孤独、自殺の問題も解決に向けて前進していくのではないのでしょうか。

それには現状の道德教育や理念だけでは難しいと思います。

遙か昔、聖徳太子は仏教でこの国を治めようとしてしました。

仏教のみならず、キリスト教や神道など、宗旨、宗派を問わず、スピリチュアルな力を見直す時が来ているように思います。

もちろんカルト宗教や、宗派同士の争いなどの危険性がありますが、それに怯えて、人間教育に宗教、哲学、心理学のスピリチュアル性を排除することを、私はとても残念に思う人間です。

デジタルやA Iの力が大きくなり、その弊害も大きくなればなるほど、対角線上にあるスピリチュアルは、強力な解毒作用をもたらすのではないのでしょうか。

実際、世界保健機関 WHO の執行理事会では、同機関設立憲章前文にある健康の定義を修正しようという発議が過去4回もありました。

「健康とは単に疾病または病弱であるということにとどまらず、身体的 **physical**、精神的 **mental**、社会的 **social** に完全にウェルビーイング **well-being** な状態をいう」という健康の定義に、「スピリチュアル **spiritual**」を追加すべきかどうかの議論を進めています。

がん患者の緩和ケアにスピリチュアルを導入している医療機関が増えています。

同じように子どもの心の痛みに対する緩和ケアにも効果が期待できると思います。

学校に特定の宗教を持ち込もうというのではなく、デジタル社会の解毒剤に宗教、哲学、心理学の扱う、目に見えない不思議な力を活用するのが良いのではないかと考えています。

「目に見えない力」は自然科学の世界では不合理なことかもしれませんが、合理

的なことばかり実践した結果が、今の学校の崩壊と子どもの自殺に結び付いている可能性があるのですから。

実はスピリチュアルな考え方は、証明不能で非合理的な考えとばかりは一概に言えなくなっています。

科学の進歩による量子物理学と、釈迦が唱えた原始仏教の考え方が合致しようとしてきています。興味を持たれた方はA Iにそのことを聞いてみましょう(笑)。

最後に星の王子さまのお話に出てくる、この言葉で締めくくります。

「とても簡単なことだ。ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない」

シンガーソングライター
ふるかわひであき